

目 標	認 知											情 意																		
	知識及び技能					思考力, 判断力, 表現力						学びに向かう力, 人間性の涵養																		
	知 識 *創意工夫の過程で得たり 生かしたりする知識			理 解 *創意工夫を生かした音楽表現 をするために必要な技能		応 用	分 析			評 価		創 造		受 容 注 意			反 応			価値付け			価値の組織化		価値あるいは価 値組織による性 格化					
	具 体 的 知 識	方 法 手 段 に つ い て の 知 識	概 括 や 抽 象 に つ い て の 知 識	言 い 換 え	解 釈	推 量	要 素 の 分 析	関 係 の 分 析	組 織 原 理 の 分 析	内 的 証 拠 に よ る 判 断	外 的 規 準 に 照 ら し て の 判 断			現 象 や 刺 激 の 意 識	進 ん で 受 容	統 制 的 選 択 的 注 意	熟 認 的 反 応	積 極 的 反 応	満 足 し て 反 応	価 値 の 受 容	価 値 の 選 択	価 値 を 身 に 付 け る	価 値 の 概 念 化	価 値 体 系 の 組 織 立 て	一 般 化 さ れ た 態 度	人 格 化				
音楽科  の目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質や能力を育成する																													
	<ul style="list-style-type: none"> <li>音や音楽の存在に<b>気付く</b></li> <li>音や音楽を、音楽を形づくっている要素を<b>捉える</b></li> <li>音や音楽、音楽文化を<b>知る</b></li> <li>曲や曲種について知っている事柄の量を増やす</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>音や音楽の存在を主体的に捉える</li> <li>音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉える</li> </ul>															<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育む</li> <li>音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う</li> </ul>									
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中の音や音楽の働きを自覚する</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>音や音楽、音楽文化を支える</li> <li>音楽文化についての理解を深める</li> <li>様々な音楽がもつ固有の価値を尊重し、その多様性を理解する</li> </ul>													<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の音楽に<b>愛着をもつ</b></li> <li>我が国及び世界の様々な音楽文化を<b>尊重する</b></li> <li>自己のイメージや感情との関わり、音や音楽と生活や社会との関わり、音や音楽と伝統や文化などの音楽の背景との関わりなどについて<b>考える</b></li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒がその後の人生において、音や音楽、音楽文化と主体的に関わり、<b>心豊かな生活を営む</b></li> <li>生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、学んでいること、学んだことの意味や価値などを生徒が<b>自覚する</b></li> </ul>								
						<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を、人々の営みと共に生まれ、発展し、継承されてきた文化として捉える</li> </ul>													<ul style="list-style-type: none"> <li>自己及び日本人としての<b>アイデンティティ</b>を確立する</li> <li>自分とは異なる文化的・歴史的背景をもつ音楽を大切に、<b>多様性を理解する</b></li> </ul>											
						<ul style="list-style-type: none"> <li>創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける</li> <li>音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴く</li> </ul>																								
						<ul style="list-style-type: none"> <li>音や音楽を、そこに鳴り響く音響そのものを対象として、音楽がどのように形づくられているか、また音楽をどのように感じ取るかを明らかにしていく過程を経ることによって捉える</li> <li>音や音楽と音や音楽によって喚起される自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付ける</li> </ul>																<ul style="list-style-type: none"> <li>音によるコミュニケーションとしての音楽独自の特徴を踏まえ、音や音楽によって、人は自己の心情をどのように表現してきたか、人と人がどのように感情を伝え合い、共有し合ってきたかなどについて、生徒が<b>実感する</b></li> </ul>								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽に対する感性を働かせる</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽文化を継承、発展、創造する</li> <li>音楽文化と豊かに関わる</li> </ul>																								
						<ul style="list-style-type: none"> <li>音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る</li> </ul>																								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について<b>理解する</b>とともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を<b>身に付ける</b>ようにする。</li> <li>曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける</li> </ul>																<ul style="list-style-type: none"> <li>(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。</li> </ul>								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの音楽があることを知る</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>人々の暮らしとともに音楽文化があり、そのことによって様々な特徴をもつ音楽が存在していることを理解する</li> <li>個々の音楽の特徴を捉える</li> <li>複数の音楽を比較したり関連付けたりする</li> <li>それぞれの音楽の共通性や固有性を捉え、理解する</li> </ul>																								
<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの音楽に対する価値意識を広げる</li> <li>人類の音楽文化の豊かさに<b>気づき</b>、<b>尊重する</b></li> </ul>																														
<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解する</li> <li>曲想と音楽の構造との関わりや、背景となる風土、文化や歴史などを理解する</li> <li>音楽についての認識を深める</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解する</li> <li>様々な音楽表現を試しながら思いや意図を明確にしつつ、技能を習得する</li> </ul>													<ul style="list-style-type: none"> <li>表現や鑑賞の活動に取り組む中で、イメージや感情が音楽によって喚起されるなどの情動の変化によって音楽を<b>楽しむ</b></li> <li>他者と一緒に歌ったり楽器を演奏したり音楽を聴いたりして音楽を<b>楽しむ</b></li> <li>今まで知らなかった音楽に出会い音楽を<b>楽しむ</b></li> <li>生徒が音や音楽の存在に<b>気づき</b>、それらを主体的に捉える</li> <li>生徒が、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして自ら音や音楽を捉えていき、生徒の音楽に対する感性を働かせる。</li> <li>生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わう</li> <li>生徒が進んで音楽に親しむ</li> <li>音楽活動を楽しむ</li> </ul>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>(表現領域)</li> <li>音や音楽に対する自己のイメージを膨らませる。</li> <li>他者のイメージに共感する</li> <li>音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤する</li> <li>表したい音楽表現について考える</li> </ul>																		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の演奏が聴き手に評価されたり、あるいは、音楽に対する感じ方が人によって多様であることを認識したりして音楽の楽しさを感じる。</li> <li>生徒が音楽表現に対する思いや意図をもって音楽で表したり、曲想と音楽の構造や背景などに関わらせて味わ</li> </ul>												

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように音楽で表現するかについて思いや意図をもつ</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>って聴いたりすることによって、より深まった音楽活動の楽しさを体験する</li> <li>・「この音の方が自分にとって心地のよい音だ」、「この音楽の響きには豊かさが感じられる」、といった意味付けを確かなものにする。</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いや意図を、創意工夫の過程において、知識や技能を得たり生かしたりしながら、さらに深まったり新たな思いや意図としたりする。</li> </ul>			
		<p>(鑑賞領域)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を感じ取る</li> <li>・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚する</li> <li>・それらが生み出す特質や雰囲気を受感する</li> <li>・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に音楽を生かす</li> <li>・生涯にわたって音楽を愛好しようとする</li> <li>・音楽のよさや美しさなどを感じ取ることによって形成される思いをもつ。</li> <li>・そのためには、音楽が醸し出すよさや美しさなどが人々の感情に何をもちたすのか、ということに着目する</li> <li>・音楽活動によって生まれる楽しさや喜びを実感する</li> <li>・音楽科の学習が基盤となって生涯にわたって音楽に親しみ、人間的成長の一側面とする</li> <li>・生涯にわたって音や音楽への興味・関心をもち続け、それを更に高めていく</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情を、音楽の構造や背景などと関わらせて捉え直す</li> <li>・その音楽の意味や価値などについて自分なりに評価しながら聴く</li> <li>・音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る</li> <li>・音楽科の特質に応じた言語活動を行う</li> </ul>				<p>一人一人の豊かな心をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心をもつ</li> <li>・情緒などに比べて更に複雑な感情をもつ</li> <li>・音楽を聴いてこれを美しいと感じる</li> </ul>
						<ul style="list-style-type: none"> <li>・更に美しさを求めようとし感性によって育てられる豊かな心をもつ</li> <li>・美しさを受容し求める心をもつ</li> <li>・美だけに限らずより善なるものや崇高なるものに対する心、他の価値に対しても通じるものをもつ</li> </ul>

目標	認 知										情 意															
	知識及び技能					思考力、判断力、表現力					学びに向かう力、人間性の涵養															
	知 識			理 解 *創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能		応 用		分 析		評 価		創 造		受 容 注 意			反 応			価値付け			価値の組織化		価値あるいは価値組織による性格化	
	具体的知識	方法手段についての知識	概括や抽象についての知識	言い換え	解釈	推量	要素の分析	関係の分解	組織原理の分解	内的証拠による判断	外的規準に照らしての判断			現象や刺激の意識	進んで受容	統制的選択的注意	黙認的反応	積極的反応	満足して反応	価値の受容	価値の選択	価値を身に付ける	価値の概念化	価値体系の組織立て	一般化された態度	人格化
第1学年 (①),	<p>(①) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について<b>理解する</b>とともに、<b>創意工夫</b>を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。</p> <p>(②) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について<b>理解する</b>とともに、<b>創意工夫</b>を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。</p>					<p>(①) 音楽表現を<b>創意工夫</b>することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを<b>味わって聴く</b>ことができるようにする。</p> <p>(②) 曲にふさわしい音楽表現を<b>創意工夫</b>することや、音楽を評価しながらよさや美しさを<b>味わって聴く</b>ことができるようにする。</p>					<p>(①) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを<b>体験</b>することを通して、音楽文化に<b>親しむ</b>とともに、音楽によって生活を<b>明るく豊かなもの</b>にしていく態度を養う。</p> <p>(②) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを<b>体験</b>することを通して、音楽文化に<b>親しむ</b>とともに、音楽によって生活を<b>明るく豊かなもの</b>にし、音楽に親しんでいく態度を養う。</p>															
	第2学年 及び第3 学年(②) の目標	<p>「知識」に関すること (①) 例えば、歌唱において歌詞の内容について扱う際、その背景となる事柄を取り扱い、興味・関心がもてるようにしたり、歌詞の内容に対する<b>理解を深めて</b>いったりする (②) そのことを曲想と関わらせて<b>理解し</b>、歌唱表現を<b>創意工夫</b>する際に<b>生かす</b>ことができるようにする</p>			<p>「技能」に関すること (①) 音楽表現の<b>創意工夫</b>は、新たな知識や技能を<b>得たり生かしたり</b>する (②) 創意工夫の質的な高まりに応じて、求められる「技能」を<b>高める</b>。</p>		<p>(表現領域) (①) 音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、 (②) 多くの人が共通に感じ取れるような、その曲固有のよさや特徴などを捉え、</p>					<p>その関わりを考えながら、 他者と共有、共感しながら</p>		<p>自分なりに<b>創意工夫</b>する 音楽表現を<b>創意工夫</b>する</p>		<p>・興味・関心を<b>養い、高める</b>；</p> <p>・音楽科の学習に、また身の回りにある音や音楽に、生徒が主体的に関わっていくことのできる態度の育成を目指す</p> <p>・他者との関わりの中で行われていくことを大切にする。</p>										
<p>・合唱や合奏など、他者とともに一つの音楽表現をつくっていく体験を通して、イメージを<b>伝え合</b>ったり、協同する喜びを感じたりする</p>																										
<p>・力を合わせて合唱や合奏によって一つの音楽表現を<b>つくり上げる</b></p> <p>・表現及び鑑賞の学習において、生徒一人一人が自らの考えを他者と<b>交流</b>したり、互いの気付きを<b>共有し</b>、<b>感じ取ったこと</b>などに<b>共感</b>したりしながら個々の学びを<b>深め</b>、音楽表現を<b>生み出</b>したり音楽を評価してよさや美しさを<b>味わって聴</b>いたりできるようにする</p>																										
<p>・合唱や合奏は、他者とともに一つの音楽表現をつくっていく</p> <p>・音楽表現に対する思いや意図に基づく自己の主張と他者との協調を両立する</p> <p>・鑑賞では、他者の気付きを共有し、感じ取ったことなどに共感する</p> <p>・自分の音楽の捉え方を広げる</p> <p>・その曲固有のよさや美しさを共有して<b>味わって聴く</b></p> <p>・他者と関わりながら、音楽表現を<b>創意工夫</b>して音楽で表したり音楽のよさや美しさを<b>味わって聴</b>いたりできるようにする</p>																										
<p>(鑑賞領域) (①) 音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、 (②) 自分の解釈や評価のみに留まらず、多くの人が共通に感じ取れるような、その曲固有のよさや特徴などを捉え、</p>										<p>自分がどのように解釈し評価したのかを大切に<b>する</b>。</p> <p>他者と共有、共感することが大切である。</p> <p>その上で、例えば、長い歴史の中で多くの人に愛され、親しまれてきたことに思いを馳せるなどして、より深く<b>味わって聴く</b>ことができるようにする</p>		<p>・音楽と人々の生活などとの関わりに関心を持ち、我が国の音楽に愛着をもったり世界の様々な音楽の多様性を認め大切にしたりする</p> <p>・表現や鑑賞の活動を通して、音楽が人々の暮らし、地域の風土、文化や歴史などの影響を受け、社会の変化や文化の発展とともに生まれ、育まれてきたものであることを、生徒が感じ取る</p>														
<p>・音楽を・生活の中に取り入れ、<b>明るく豊かな生活を送る</b></p>																										